

追跡調査による沖縄女性の17歳と57歳の体型比較と現在の体型意識
大浜千代* ○林 隆子** 志村清美*
(*武蔵野女大 **広島大)

目的：従来実施されている体格調査は、各年代を同時期に計測する横断的なものが殆どである。ここでは、高校生の時に身体計測をした女子を対象とし、40年を経た現在の身体計測、すなわち個人の追跡調査を行い、体つきに関する意識との関連を検討した。

方法：1957、8年に計測した164名の調査票に基づいて当時の協力3校の同窓会名簿により現在の住所をたどり、約半数の人に調査協力を依頼した。その結果26名の協力が得られた。その他に2名の協力者を加え合計28名の調査を行った。調査内容は、身長・体重などの身体計測51項目および体型に関する意識（太り、痩せ）である。

結果：対象者の平均年齢は57歳で、69%の人が現在に至るまでフルタイムの仕事続けている。身体計測値については、身長など高径項目はごく僅かな増加がみられるのみである。しかし、胸囲など周径項目ならびに体重は、大きな増加がみられる。特に胴囲においては顕著であるが個人差も大きい。体型意識については、68%の人が痩せたいと思っており、このグループの周径項目・体重およびローレル示数の値はいずれも全体の平均値より高く、今のままでよいグループの平均値と比べ有意な差がみられた。なお今回の結果を1992～94年に行われた身体計測値（50～59歳、沖縄女子）のデータと比べたが、有意差は認められなかった。